

# 3大学教養教育共同化フォーラム 時代が求める新たな教養教育を考える

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の3大学は、教養教育の共同化に向けた取り組みを進めている。今後の大学の教養教育のあり方を探るフォーラム「時代が求める新たな教養教育を考える」(京都府、京都三大学教養教育研究・推進機構主催)が2月3日、京都市上京区

の府民ホール・アルティで開かれた。昭和女子大学学長の坂東眞理子さんの基調講演のあと、坂東さんと京都大学名誉教授の上杉孝實さんが対談。コーディネーターは、京都府立大学副学長で京都三大学教養教育研究・推進機構運営委員長の築山崇さんが務めた。



## 「共感する力、創造する力」-時代が必要とする教養-

これからの時代には、社会に役立つ知識や技術に加えて、人間としての豊かさを併せ持った人材が必要だと考えています。

社会のグローバル化が進む中、世界で活躍するために大切な資質は、健康と体力です。心身ともに元気な体があつてはじめて、努力や行動を続ける力が湧いてきます。次に大事なものは知的好奇心。どんなことにも興味を持ち、知る楽しさを感じる心です。近頃はインターネットで簡単に情報が得られるせいか、何事にも面白くない若者が増えています。知的好奇心を養うには、幼少期から自然に触れるとともに、人の温かさや厳しさを実感するよう、デジタル世界にはない体験が必要なのではないでしょうか。また、本を読むことで論理的思考が身に付き、筋道を立てて考えられるようになります。これは文化や背景が異なる人を説得する際にも役立つでしょう。ぜひ学生のうちに読書習慣を付けてほしいものです。各自が個性を伸ばし、創造性を発揮するために基礎学力が不可欠です。しかし残念ながら、ここ数年、多くの子どもたちの基礎学力は低下しています。高校生の3割以上は自宅学習が1時間未満です。大学生でも読書は月に1冊程度であり、入学試験で選択しなかった教科は知識が乏しく、広い年代で自主学習の習慣が軽んじられています。大学や社会へ出る前の高校生が必要最低限の学力を保てるように、高校卒業資格試験を実施すべきではないでしょうか。

### 基調講演



昭和女子大学学長 坂東眞理子氏  
富山県生まれ。1969年総務府内閣府入省内閣総理大臣官房参事官男女共同参画室長を経て、95年埼玉県知事に就任。2001年より内閣府男女共同参画局長。03年退官。05年4月に昭和女子大学副学長に就任。07年4月より現職。「女性の品格」(朝日)「生き方」(夢を実現する力)「日本人の美質」(著書多数)。

### 社会に役立ち、人としての豊かさにつながる教養を

グローバル社会を生きるためには、語学を使いこなす能力も必要です。その上で、人種、宗教などのさまざまな異なる価値観を受け入れ、偏見を持たずに協力する姿勢が求められます。面白い考え方をもち、あらゆる人に対等かつ礼儀正しく接することも、なくてはならない教養でしょう。物事をたくさん丸覚えすることだけが教養ではありません。知識を背景として、人どうし接するかが重要で、コミュニケーションにおいては、日本人特有の抽象的な表現は国際社会で通用しません。端的かつ具体的に、オリジナリティーのある話し方を心掛けることも教養の一環だと考えます。

海外の大学では、グローバルな人材を育てる教育が盛んです。例えばEU(欧州連合)は、自国以外の大学で単位が取れる仕組みをつくり、学生の国際交流を促しています。残念ながら、日本では近年、留学する学生が減っているという聞かれています。留学でなくても、積極的に学外へ出る機会をつくるのが大切でしょう。例えば農業や林業体験で自然と触れ、介護や福祉など社会貢献することによって他者への共感力を養うことは、学生が社会に出て活躍するとき必ず役に立つはずです。

今の大学生には、学内、学外の両面における教育が必要です。社会に役立つ教養と、人としての豊かさにつながる教養。双方を貫く志や人間愛、これらを広く身に付けさせることが、今後の教養教育における使命だと感じています。

# 大学における学びと教養

## 改革の可能性を探る

### 対談 坂東眞理子氏 x 上杉 孝實氏

コーディネーター ● 築山 崇氏

現代社会における教養とは何でしょうか。

上杉 1972年にユネスコ(国連教育科学文化機関)が発した報告書「ライニング・トゥ・ビー」で、「何かを所有するためでなく、人間であるための学習」という考え方が出てきました。しかし自分が生きていることを追求するだけでは不十分であり、その「人」とともに生きるための学習」という考え方が提唱されました。ただ、今の日本人は他者と同調することに執着しすぎていると感じます。グローバル社会の世界市民として、私たちが個性を大切にしながら、人とともに生きる力、教養を培っていかなくてはなりません。



京都大学名誉教授 上杉 孝實氏  
京都府生まれ。1961年京都大学大学院教育学研究科修士課程修了。京都府立図書館、奈良女子大学などでの勤務を経て、78年京都大学助教授、87年同教授、京都大学教育学部長、日本社会教育学会会長などを歴任。著書「現代文化と教育」「地域社会教育の展開」「生涯学習と人権」「生涯学習、社会教育の歴史の展開」など。

現代社会における教養と何でしょうか。

上杉 1972年にユネスコ(国連教育科学文化機関)が発した報告書「ライニング・トゥ・ビー」で、「何かを所有するためでなく、人間であるための学習」という考え方が出てきました。しかし自分が生きていることを追求するだけでは不十分であり、その「人」とともに生きるための学習」という考え方が提唱されました。ただ、今の日本人は他者と同調することに執着しすぎていると感じます。グローバル社会の世界市民として、私たちが個性を大切にしながら、人とともに生きる力、教養を培っていかなくてはなりません。

上杉 大学には多様な教養科目が用意されているので、知的的好奇心や論理的思考を養うことができます。専門知識が得られても、全体を見通す広い視野がなければ実際に知識を生かすことはできません。単にこの科目を学ぶだけでなく、総合的にさまざまな教養を身に付けることで広い視野が得られるはずですが、教養教育の問題は、教員がそれぞれの専門を断片的に教えるため、カリキュラム構成のセンスが問われることです。さらに教養の講義は大人数で行うことが多く、これを拭い去り、教養人は相手を分かちあられる人だというポジティブな印象を社会全体でつくっていくたいものです。

自己中心でなく、人が何を求めているかという視点を持つ人が「志のある人」です。自分の成功を追求し、出世のためだけに学校や企業に入るのは、人間の志としていかなるものかと思えます。たとえ出世できなくても、社会の役に立つ人は素晴らしいという価値観を社会全体が持つべきではないでしょうか。

## 上杉 さまざまな教養で、広い視野得られる

## 坂東 知識を材料に、自分なりに判断を

坂東 教養は多くの情報を知っていることではありません。知識を材料として、自分なりの判断や価値観を加えることだと思います。私が学生のころは、みんなが知っていることで自分が知らないのは恥ずかしいという感覚がありました。今の学生は知らなくても恥ずかしくない人もいます。彼らに知る楽しさや知識を使いこなす面白さを実感させるには、得た情報が役立つ経験をさせることが大切です。

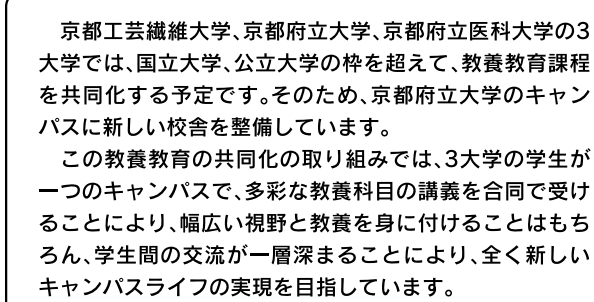
坂東 小規模な大学はマンモス大学に比べると科目目の選択肢が劣ることは否めません。しかし3大学が協力することで、幅広い科目を提議できる上、他大学の教員による講義も知的好奇心を育てる刺激になるでしょう。普段とは違う教員や学生、風土などに接することで、創造性も触発されます。学生にとつて質的にも量的にも幸せなことですね。

上杉 多くの学生は対立を恐れ、討論を避ける傾向があります。3大学共同化では、さまざまな分野の学生が一緒に学ぶので、所属大学の背景や考えが違うからこそ討論しやすい面もあるでしょう。異文化の人に説明する力を身に付ける上でも意味のある連携だと思います。

上杉 大学には多様な教養科目が用意されているので、知的的好奇心や論理的思考を養うことができます。専門知識が得られても、全体を見通す広い視野がなければ実際に知識を生かすことはできません。単にこの科目を学ぶだけでなく、総合的にさまざまな教養を身に付けることで広い視野が得られるはずですが、教養教育の問題は、教員がそれぞれの専門を断片的に教えるため、カリキュラム構成のセンスが問われることです。さらに教養の講義は大人数で行うことが多く、これを拭い去り、教養人は相手を分かちあられる人だというポジティブな印象を社会全体でつくっていくたいものです。

坂東 教養は多くの情報を知っていることではありません。知識を材料として、自分なりの判断や価値観を加えることだと思います。私が学生のころは、みんなが知っていることで自分が知らないのは恥ずかしいという感覚がありました。今の学生は知らなくても恥ずかしくない人もいます。彼らに知る楽しさや知識を使いこなす面白さを実感させるには、得た情報が役立つ経験をさせることが大切です。

上杉 多くの学生は対立を恐れ、討論を避ける傾向があります。3大学共同化では、さまざまな分野の学生が一緒に学ぶので、所属大学の背景や考えが違うからこそ討論しやすい面もあるでしょう。異文化の人に説明する力を身に付ける上でも意味のある連携だと思います。



完成イメージ

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の3大学では、国立大学、公立大学の枠を超えて、教養教育課程を共同化する予定です。そのため、京都府立大学のキャンパスに新しい校舎を整備しています。

この教養教育の共同化の取り組みでは、3大学の学生が一つのキャンパスで、多彩な教養科目の講義を合同で受けることにより、幅広い視野と教養を身に付けることはもちろん、学生間の交流が一層深まることにより、全く新しいキャンパスライフの実現を目指しています。